2012. 5. 19

作曲家シリーズ

フランス音楽の神髄を伝える作曲家　フランク

プログラム

　フランスの作曲家というと、ベルリオーズ、サン・サーンス、ドビュッシー、ラヴェルなどがすぐに思い浮かびますが、フランクもフランス音楽の神髄を伝える作曲家として重要な位置を占めています。今日はセザール・フランクの代表的な作品を集めてお聴きいただきます。フランクは最初オルガン奏者として活躍し、作曲家としはオルガン曲やピアノ曲、宗教音楽などが初期の作品を占めていましたが、一連の傑作群が生まれたのが50歳過ぎという典型的な大器晩成型の作曲家でした。作品の特徴として1つの主題が楽曲全体に循環して発展して行く「循環形式」を用いて独自の世界を切り開いて行きました。古今のヴァイオリン・ソナタの最高傑作のひとつであるイ長調ソナタ、ロマン派交響曲屈指の名作、交響曲二短調、このジャンルの名曲のひとつ、ピアノ五重奏曲ヘ短調、従来の変奏曲を覆す自由な変奏曲風幻想曲とも言える特異な傑作「交響的変奏曲」、フランクのピアノ作品を代表する名曲「前奏曲、コラールとフーガ」等、今回取り上げる作品はいずれも循環形式で書かれています。
　フランクの作品は一見地味で、すぐには溶け込んで行かない音楽かも知れません。しかし、聴けば聴くほど味わい深く、心に染み込んで来る作曲家です。今日はその魅力を知る足掛かりになればと思います。

＊＊＊＊＊＊＊

セザール・フランク（1822～1890）：
前奏曲、コラールとフーガ（1884）～抜粋
　シューラ・チェルカスキー（ピアノ）
　（1988.2.11　カザルスホールでのLive）

交響的変奏曲（ピアノと管弦楽のための）（1885）
　アリシア・デ・ラローチャ（ピアノ）
　ラファエル・フリューベック・デ・ブルゴス指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
　（1972.5録音　ロンドン盤）

ヴァイオリン・ソナタイ長調（1886）～抜粋
　イーゴリ・オイストラフ（ヴァイオリン）／ナタリア・ツェルトサロヴァ（ピアノ）
　（1992.5.16　東京芸術劇場でのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

ピアノ五重奏曲ヘ短調（1879）～ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から
　クリフォード・カーゾン（ピアノ）／ウィーン弦楽四重奏団
　（1979.8.20　オシアッハ修道院教会でのLive）

交響曲二短調（1886）～ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章
　ジョン・エリオット・ガーディナー指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
　（2002.4.7　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）